【授業科目】総合臨床実習　Comprehensive clinical training

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
高崎 昭彦、千原 猛、星野 真理 森 啓至、森本 誠、小菅 優子 杉浦 諭、山口 央輝、榎本 喜彦 大島 茂、澤田 浩秀	3年次 前　期	必 修	11	495	実習	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	臨床検査にかかわる科目を習得し学内基礎実習で学んだことも生かし、実際の医療現場で臨床検査技師の実習担当者からの指導を仰ぎながら基本的な技術・能力を実践的に習得させる。技術・能力は勿論、本科目では特に患者様との接遇、チーム医療の一員としての責任と自覚を養い、適切なマナーとコミュニケーション能力について修得させる。特に生理学的検査においては、標準十二誘導心電図検査、肺機能検査（スパイロメトリー）を実際に実施しながら、患者接遇について修得させる。チーム医療においては、施設内のチーム（栄養サポートチーム、感染制御対策チーム、糖尿病療養指導チーム、抗菌薬適正使用支援チームなど）の臨床検査技師としての役割と実施内容を理解させる。病院検査室のみでなく救急部門や病棟、また今後活躍の場となるであろう検査センター（衛生検査所）、健診センター、在宅医療等での実習も加えて臨床検査技師としての役割と実施内容を理解し、総合的な能力・知識向上を目的とし実習を行う。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。提出された課題について、全体の総評コメントを掲示にて公開する
実務経験に関する 授業内容	臨床検査士技師・医師の臨床経験をもつ教員が、臨床検査技師として必要な臨床実習の知識について、現場業務項目に関する資料・教材を交えながら指導していく科目である。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー④「幅広い視野で臨床検査を考え、ヘルスケアシステムにおける臨床検査の専門性を理解し、保健･医療・福祉の専門職と連携し、地域社会に貢献できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①　病院において、臨床検査技師の仕事を体験し、臨床検査技師の職業について理解できる。 ②　衛生検査所における臨床検査技師の仕事を体験し、仕事内容を理解できる。 ③　健康診断センターにおける臨床検査技師の仕事を体験し、仕事内容を理解できる。 ④在宅医療の現場を体験し学び、臨床検査技師としてできることを追求できる。
時間外学習に 必要な学修内容 および学習上の助言	事前：臨床検査に関するこれまでの講義で作製した整理したノートを見直しておく（1 時間） 事後：毎日の実習で得た知識や経験についての要点をまとめておく（1 時間） ※その他に、実習で学んだことを振り返るための課題を課すことがある（各６０分）。 上記例は、１単位30回科目の場合で、予習+復習に必用な時間は、1時間／１回となる。 ※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	実習期間　6月から9 月 実習施設 本学が契約している病院および検査機関、健康診断センター、訪問看護ステーション 実習内容 学外実習として各医療機関で臨床検査技師に必要な技術等を実践的に修得する 1）検体等の受付業務 2）採血業務 3）接遇（患者および医療スタッフとのコミュニケーション） 4）各部門（臨床化学検査、一般検査、免疫血清検査、血液検査 輸血検査、微生物検査、病理組織検査、遺伝子検査および生理機能検査等）における検査内容および業務などについて学ぶ。 また精度管理、リスクマネージメントなど管理業務の重要性についても学修する。 担当教員が巡回指導
評価方法 評価基準	病院実習態度・施設からの評価　70%、レポート 30%　課題レポートについては個別に添削して返却する
教科書	病院での実習内容に応じて、本学で使用していた教科書を使用　／　参考書等：なし
学生への メッセージ	今までに得た知識･技術を糧に、基礎的な技術の他に最新の技術や機器による検査を体験することにより、臨床検査の現場で臨床検査技師としての仕事を学びます。また、患者さんとのふれあいや他の医療スタッフとの連携を体験します。この病院実習では学生としての学ぶ姿勢や社会人としての常識も評価されることから、十分自覚して病院実習に臨んでください。